

実践⑥ 南種子町おはなし子ども会

(全国読書推進協議会 「優良読書グループのあゆみ」 への提出原稿)

私たちのグループは、親子のふれあいや本の良さを知ってほしいという目的で、平成六年に結成され、現在十四人で活動しています。

活動は、町立図書館で行う「おはなしの時間」と、依頼のあった小学校での「おはなし宅配便」が中心です。

また、教育委員会が主催する「図書館劇場」では、会場準備や参加者の誘導、片付けまでのサポートも行っています。

「おはなしの時間」は、月一回実施しており、季節の絵本や紙芝居、手遊びやエプロンシアター等、飽きさせないプログラム作りを心掛けています。

「おはなし宅配便」は、依頼のあった小学校へ出向いて行っています。小規模校が多いため、全学年を対象に行うことが多く、本選びに気を配り、「種子島の民話」の読み語りを必ず取り入れています。

また、パネルシアターや大型絵本等、全児童が見やすい大きさ、低学年にも分かりやすいプログラム構成を心掛けています。

二つの活動の際には、「おはなしのろうそく」を灯し、雰囲気作りも気を付けています。

ろうそくは、読み聞かせ開始に火を灯し、プログラム終了後、参加してくれた子どもに火を消してもらいます。「おはなしの時間」では、誕生月の子どもが代表で消し、「宅配便」では、六年生に代表でお願いしています。今では恒例となり、それを楽しみにしている子どももいるようです。

そして、ただ火を消すのではなく、「火を消すとき、願い事をすると願いがかなうと言われているんだよ。」と伝えると、一生懸命に手を合わせ祈る姿をよく見ます。

活動後に、子どもたちから「また来てね。」と、笑顔で言われると、次の活動への活力と励みになります。

これからも、子どもたちから楽しみにしてもらえりようなグループを目指し、自分たちも多くの笑顔・驚き・好奇心との出会いを楽しみに活動を続けていきたいと思ひます。

